

## きずな

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を備え、  
力強く生き抜く生徒の育成」

### 中学生は、「〇〇期」

タイトルを見られて、「〇〇」に入る言葉としてどんな言葉が思いつきますか？ おそらく「反抗」という方が多いのではないのでしょうか。たしかに、中学生は親の言うことに対して反抗的な態度を取ることが多いです。でもこれは、人として成長する上ですごく大事なことなのです。

子どもたちは、それまで親の言うことをすべて「正しいこと」と捉えて従ってきました。それが、中学生になると、「本当に親の言うことは正しいのだろうか？」「他の人の考えはどうなのだろうか？」「自分はこう考えるのだけれど・・・」というように、多様な考えに触れながら、自分なりの「考え方」を作っているのです。ですから、親の言うことにすんなりと従うことができなくなってきます。

中学生の時期は、「反抗期」と捉えるのではなく、「自立期」と捉え、子どもが自分の考えをもとに行動する様子をぜひ見守ってください。不十分な考えで失敗するかもしれません。その時は、「ほら、だから言ったでしょう」とは言わず、「あなたが考えて行動したのだから、失敗しても良いんだよ」と励まして、失敗が次の行動に生きるようにしてあげましょう。



あわてない、  
あわてない

## 水嫌いな植物？

3月に、市内の各中学校に胡蝶蘭が配付されました。これは、新型コロナウイルス感染防止のために、各種イベントが中止や縮小になって花の需要が減ったため、この時期に合わせて生産された花を「みやざき花いっぱいプロジェクト」として配付されたものです。本校でも小・中学校の卒業式や入学式をこの胡蝶蘭が彩ってくれました。

胡蝶蘭は長い期間花を咲かせて私たちの目を楽しませてくれていましたが、いよいよ花が終わりを迎え、その後の管理について調べていました。すると、

「胡蝶蘭は水が嫌いなので」とか「植え替えの前に根を乾かして」といった言葉を見かけて驚きました。私の常識の中で、「植物は水が必要なもの」との認識があったためです。

「調べておいて良かった。知らなかったらよかれと思ってたくさん水をやって、枯れさせてしまうところだった。」と安堵したところでした。

子どもも同じです。大人が「よかれと思って」したことが、その子どもに合っていなければ・・・。

まずは子どもの特性を見極める事が必要です。中学生の時期にそれぞれの特徴がはっきりしてきます。ぜひそれをしっかり見極めてその特性に応じた対応を心がけたいものです。本校の14人の生徒一人一人について、学校でも、しっかりとその特性を見極めて、その生徒に応じた対応を心がけていきます。



## HP をご覧ください

今年は、学校の様子をお伝えする役割はHPに任せています。ぜひご覧ください。写真や動画など、学校の様子がよく分かると思いますよ。

